



創立1880年

〒169-0051
東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館6階
Tel 03-6302-1960
URL <http://tokyo.ymca.or.jp>
発行所 公益財団法人 東京YMCA
発行人 星野太郎

東京YMCA 4

2026

東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

2026年度 東京YMCA運営方針

「TOKYO YMCA VISION 150」の行動指針を柱に



公益財団法人東京YMCA
総主事 星野太郎

VISION 150が示す未来

新しい年度が始まりました。多くの方々と共に祈り、取り組んできた東京YMCA中期計画「TOKYO YMCA VISION 150」(イチゴゼバ)が、いよいよ2年目を迎えます。

このVISION 150は、東京YMCAが創立150年を迎える2030年に向けて、目指すべき社会の姿とそれを実現するための取り組みを掲げた私たちの道標です。

2025年〜2027年を第一期、2028年〜2030年を第二期とする中期計画で、5つの行動指針と43の重点項目で構成されています。その先にある願いは「誰もが安心して生きられる平和な社会の実現」です。

一年目は「共有と自分事化を定着」

一年目は中期計画の周知と浸透に主眼を置いたフェーズでした。機関紙をはじめ、会員大会やシニアフォーラム

の機会を用いVISION 150を取り上げてきました。さらに、在京ワイズメンズクラブ(東京YMCAサポート団体)の各例会でも多くの共有の機会をいただきました。

二年目は「基本方針」として実行へ

そして二年目、さらに多くの方々とVISION 150の共有を図りつつ、計画を着実に実行していく段階としたいと思います。

東京YMCAが一丸となってこの取り組みを推進するため、全ての事業や活動において、VISION 150に示された5つの行動指針を20

26年度の基本方針と位置付けました。各事業別の運営方針も、この5つに基づいて策定されています。

2026年度の取り組み

二年目の具体的な取り組みとして、43項目にわたる重点項目の中には次のようなものが計画されています。

- ・ユースボランティアリーダーへの研修費用と交通費支援の実現
- ・外国にルーツのある子ども・若者への支援プログラムや居場所事業の充実
- ・多様な国や地域からの留学生の学びを支える学校環境の整備
- ・地域の多様なニーズに対応する保育所の多機能化
- ・東京YMCA全体で取り組む気候変動対応プロジェクトの推進などです。

希望に満ちた未来を共につくる

先が見通せない不確実な時代、不寛容で息苦しさを感じる自己責任社会、平和がとんどん遠のくように感じる日々、そんな世界を少しでも変えていくために私たちは存在しなくてはなりません。

そのために、一人でも多くの方々とこのVISION 150を共有し、2030年に向けて「希望を耕し、未来を紡ぐ」働きを共に進めていきたいと願っています。

新年度もどうぞよろしくお願いたします。

わたしは、あなたたちのために立てた計画をよく心に留めている、と主は言われる。それは平和の計画であって、災いの計画ではない。将来と希望を与えるものである。

旧約聖書 エレミヤ書 29:11

TOKYO YMCA VISION 150を柱とした2026年度東京YMCA運営方針

1. ユースが輝く場をつくりま
2. 地域とともに歩みます
3. 多様性のある場を大切にします
4. 子どもの未来のために環境を守ります
5. 活動の基盤となる組織を強くします

VISION 150の行動指針 具体的な取り組み



- 子ども・若者が多様な価値観に触れ、仲間とともに社会とつながりながら主体的に成長できる場をつくりま。安心して自分らしくいられる環境のもと、一人ひとりに寄り添い、「やりたい」を実現できるよう支えます。
- 地域の人々とともに課題に向き合い、つながりを育みながら、誰もが安心して暮らし子どもたちが豊かに成長できる地域づくりを進めます。対面・オンラインの両面で新たなつながりを広げ、防災・災害支援においても連携し、困難にある人々に寄り添います。
- 違いを受け入れ尊重する文化を育み、多様な価値観に触れあえる機会を通して、その大切さを広げます。ジェンダーや年齢、国籍、障がいの有無にかかわらず、一人ひとりに寄り添い、とりわけ外国にルーツのある子どもたちへの支援を強化します。
- キャンプや野外活動、日常の体験を通して環境の大切さを伝え、自然を尊び行動できる心を育みます。気候変動への対応としてCO2排出削減に努めながら、資源の節約やリサイクルを推進し、持続可能な社会づくりに貢献します。
- 使命に共鳴する人々とのつながりを広げ、活動をわかりやすく発信しながら、ボランティアや寄付など多様な参画を促進します。また、企業・行政・諸団体との連携を深め、組織力と持続可能性を高めつつ、東京YMCAならではの活動を展開します。

赤三角

YMCAと出会い、私が強く実感していることは、「人と人とのつながり」である。この「つながり」こそが、私の人生の軸となり歩み続ける原動力となっている。▼YMCAとの初めての出会いは、社会体育専門学校(在籍時)で、当時の仲間とは卒業から20年以上経った今も変わらずに深い絆で結ばれている。キャンプリーダーとしての経験は今の自分の基盤を築いてくれた。それは当時のキャンプディレクターの存在が大きくあったからこそ信じている。▼卒業した後は山手コミュニティセンターで2年間勤務した。自分の夢であった保育士を目指してYMCAを一度は離れたものの、友人の声掛けをきっかけに再び職員として歩むこととなった。そうした時間を経て、現在は山中湖センター所長として、多くの方々の想いが詰まったこの大切な場所を守る役割を担っている。▼18歳からYMCAと共に育まれてきた「つながり」は、私の人生の一部として深く刻まれている。自分が感じ、体験してきたことを次の世代へとつなげていくこと、そして、これからYMCAと出会う人にも同じ温かなつながりを感じてもらえることを心から願っている。

(山中湖センター)
所長 荒木 暁

2026年度

新体制と各事業部のビジョン

東京YMCAは、5つの事業部と会員部・賛助会・募金・FD室、本部事務局から成る組織体制で活動を展開します。事業部統括に、2026年度の方針や取り組みについて聞きました。

「国際事業部」

学校法人東京YMCA学院院長 統括 松本数実



引き続き、東京YMCA学院学院長を務めております。本年度もよろしくお願いたします。国際事業部は、2026年度も



アメリカの高校生と日本の中高生の交流プログラム

中期計画（二年目）を継続して推進してまいります。特に力を注ぐのは、「ユースが輝く場をつくる」ことです。海外から日本に来るユース、日本で国際的な活動を志すユースが増えています。また、東京YMCAインターナショナルスクールでは昨年より高等部が始まり、ユースの活動は今後の教育の大きな柱となっていくと見込んでいます。争いが絶えない今の世界の実況にあつて、将来、平和な世界の実現に寄与するのはユースの力です。「あなたの若い日にあるあなたの創造者や覚えよ（旧約聖書、伝道の書12:11-12）」という言葉があるように、若い世代に平和の種を植え付ける教育を大切にしたいと考えています。YMCAも、ユースにとって魅力ある場所とならなければなりません。ユースエンパワメントをさらに強化し、より一層、若い力が生きるYMCAに変えていく働きを進めてまいります。

「教育・保育事業部」

統括 齊藤希世



「子どもが愛されていると感じる保育を実践すること、

若い世代が成長できる園、職員が専門性を発揮し互いを尊重し合うチームを築きながら、子どもも大人も共に学び合い育ち合う園を目指します。多くの子どもたちとの出会いの恵みと感謝し、一人ひとりの輝く平和な社会の実現を願いながら、その働きを続けてまいります。

YMCAの保育において最も大切にしています。日々の保育の中で、小さなことを一つひとつ丁寧に行い、小さなことにこそ愛をこめる。その積み重ねが、子ども一人ひとりの安心と信頼を育み、共に成長していく関係を生み出すと願っています。今年度は、園を「子育て支援と居場所づくりの拠点」としてさらに機能させ、地域と共に課題に向き合いながら多機能型の事業展開を進めていきます。また、子ども・若者・職員それぞれのエンパワメントを大切に、「一人ひとりがもつ力を引き出す」教育・保育を推進します。



遊びを通して育まれる園児と保育者の関わり

「地域福祉・居場所事業部」

統括 岡田ナスカ



「VISIO N150」に示された

5つの行動指針を事業の根幹に据え、地域に暮らすすべての人が尊重され、安心してつながることのできる「居場所」を地域の中に育んでまいります。年齢や国籍、障がいの有無や背景の違いを超えて、人と人が出会い、支え合い、希望をもって生きられる地域社会の実現を目指します。本年度は、生きづらさを抱える若者を含む子ども・ユースの主体性を育む環境の充実、孤立を生まない地域のつながりの強化、多様な背景をもつ人々が互いを

尊重し合える実践の深化を重点とします。あわせて、子どもたちの健やかな成長を支える持続可能な環境と、学び続ける組織の実現を進めながら、誰も取り残されない地域づくりに取り組んでまいります。



東雲児童館で菜園活動を楽しむ学童の子どもたち

「ウェルネス事業部」

「会員部・賛助会・募金・FD室」 統括 村上祐介



3月までぐんまYMCA総主事を務め、このたび11年ぶりに東京YMCAに帰任いたしました。4月よりウェルネス事業部、会員部・賛助会・募金・FD室の統括を務めます。これまでの経験を生かし、YMCAの使命を大切にしながら各事業部との連携を深め、その働きを社会へ広げていきたいと願っています。



キャンプでさまざまな体験を通して成長する子どもたち

ウェルネス事業部では、すべての「いのち」が尊重される社会の実現を目指し、人との関わりの中で子どもたちの成長を支えつつ、ユース世代が主体的に生きる力を育む事業を推進してまいります。また、子どもたちが水辺で自らの命を守る力を身につけられるよう、ウォーターセーフティの取り組みを地域へ広げてまいります。皆様に、社会課題の解決に向けた歩みを力強く進めてまいります。

「学校事業部」

統括 小畑貴裕



2026年度、学校事業部は「学生・生徒一人ひとりが社会に力強く踏み出せる場をつくること」を目指してまいります。専門性の習得にとどまらず、主体性・責任感・他者と共に生きる力を育み、「さすがYMCA」と評価される全人的成長の実現に向けて、各校が一丸となって取り組みます。また、地域・業界・連携機関との協働を深め、社会

に必要とされる人材の育成を推進しつつ、多様な背景をもつ学生・生徒が安心して学べる多文化共生の環境を整えます。さらに、野外教育的な学びを通じた環境意識の醸成、ICT活用による持続可能な学校運営にも積極的に取り組んでいます。こうした教育を支えるスタッフ・講師も誇りと働きがいを



レストランサービスの実習に励む国際ホテル専門学校



会員やワイズメンズクラブと共につくる会員部プログラム

本部事務局 戸坂昇子



「VISIO N150」は二年目を迎えました。

初年度の評価を踏まえ、東京YMCAの総力を挙げてその歩みを確実に前進させる一年にしたいと思っております。本部事務局は各事業部の実践を支え、東京YMCAの組織の安定性と持続可能性を高める役割を担っています。今年度は特に、「VISIO N150」に掲げられるように、職員一人ひとりが安心して働き、その力を十分に発揮できる環境づくりと、安定した経営基盤の整備を進めてまいります。また、東京YMCAの多様な働きが社会に広く認知され、多くの方々がその願いに共感し、ともに参画していただけるよう、発信力の強化にも取り組まれます。あわせて、法人の区分を越えて運営方針や中期計画を共有し、グループ法人間の連携を一層深めてまいります。新しい年度も、皆様のお支えを賜りますようお願い申し上げます。

いじめをなくすためにできることは何だろう？

2025ピンクシャツデー

いじめに反対し、互いの違いを尊重する社会を願ういじめ反対運動「ピンクシャツデー」(2月最終水曜日)。東京YMCAでは2月25日を中心に、さまざまな取り組みを実施しました。

野外教育・ユースでは、2月10日に盛岡YMCAのボランティアリーダーを迎え、座学リーダートレーニングを実施。岩手県弁護士会有志と連携して取



取り組みを紹介する盛岡YMCAのボランティアリーダー(上)と、グループワークの様子

り組む「子どもの人権プロジェクト」の実践が紹介されました。子どもたちに人権の大切さを伝えるために生まれた「子どもの人権かるた」や、企画立案から資金調達、学校との連携までを担う学生主体の活動は、参加したリーダーたちに大きな刺激を与えました。その後のグループワークでは、いじめ・SNS・不登校など社会の課題について意見を交わし「自分たちにできることは何か」を考える時間となりました。

議論を通して、子どもたちが安心できる居場所をつくることや、一人ひとりの違いを尊重する関わりの重要性が共有されました。

日々の活動が子どもの成長の場にとどまらず、人権や社会課題への実践の場であることに気づく貴重な機会となりました。

コミュニティーセンターや多世代交流施設では、メッセージボードに「言われてうれしい言葉」や「いじめをなくすためにできること」を伝えあい、会館に訪れた多くの方たちから、メッセージが書き込まれました。保育園や学童クラブでは、子どもたちと「なぜいじめはいけないのか」「困っている友だちがいたらどうするか」をテーマに対話や活動を取り入れ、日常の中で思いやりについて考える時間が設けられました。

ピンクシャツデーが大切にしていることは、「一人ひとりの尊厳を守る」という人権の視点です。今回の取り組みを通して得た気づきは、特別な一日にとどまるものではなく、日々の活動の中で実践され続けていきます。小さな関わりの積み重ねが、いじめのない社会、誰もが安心して過ごせる社会の実現につながることを信じ、活動を進めていきます。(広報室)



改めて人権や優しさについて考え、共有したピンクシャツデー

第30回ピースウォーク記念 ピースコンサート開催

平和への祈りを音楽に託して



ピースウォークで慰霊碑に祈りをささげ、平和を誓う

江東区を拠点とする「東京ひがしワイズメンズクラブ」は、東京大空襲で犠牲となった方々を悼み、慰霊碑をめぐる「ピースウォーク」を長年続けています。第30回の節目となった今年は、東京YMCA東陽町コミュニティーセンターと共催し、ピースウォークにあわせて、「ピースコンサート～アイリッシュハーブが奏でる桜月のコンサート～」が開催されました。

■私たちの願い：忘れない、つないでいく平和と共生

1945年3月10日。東京の下町を焼き尽くした東京大空襲の記憶は、歳月とともに薄れつつあります。あの日この地で何が起きたのかを次世代に語り継ぐこと、そして今と未来を生きる子どもたちの笑顔を守ること。この二つの願いを柱に、私たちは活動を続けてきました。



アイリッシュハーブの素晴らしい音色に聴き入って

■継承の30年：歩みと音楽の調べにのせる祈り

毎年3月10日前後に実施している「ピースウォーク」は、節目となる第30回を迎えました。江東区、墨田区内の慰霊碑を記した「セノタフマップ(慰霊碑マップ)」を作成したのが始まりで、今年も多く参加者が、犠牲者を悼みながら下町の街角を歩き、「悲惨な過去を繰り返さない」という決意を共有しました。

また、東京YMCA東陽町コミュニティーセンターと共催で行った周年記念の「ピースコンサート」では、アイリッシュハーブデュオ・FairyTreeによる美しい音色が響きました。映画音楽やジブリ作品の演奏に加え、第30回日本絵本賞(2025年)を受賞した『ひとのなみだ』の読み聞かせ、そして「故郷」の合唱。音楽と物語を通じ、平和への祈りを一つにしました。

■協働の力：地域に根ざしたパートナーシップ

これらの活動を支えたのは、東京YMCAとの強力なパートナーシップです。東陽町センターの「Yわい歌のひろば」「ニュースポーツ」「下町こどもダイニング」など、地域のプログラムを長年支えてきたメンバーが、当日は裏方として豚汁を振るまいました。演奏者もまた、「こどもダイニング」で活動する一員です。こうした「専門性」と「志」の掛け合わせが、ボランティアの枠を超えた、持続可能な地域コミュニティーを実現しています。

■未来へ：無関心を排し、平和の礎を築く

かつて私が東京YMCA山手学舎(学生寮)で出会ったベトナム人留学生のことを思い出します。彼は、戦禍の中で国籍を失い、異国へ渡ったまま消息を絶ちました。世界では今も戦火が絶えず、日本を取り巻く情勢も予断を許しません。平和への願いを形にし、次世代が健やかに暮らせる「コミュニティ・ウェルビーイング」の実現に向け、これからも歩みを進めてまいります。



裏方として支えたメンバー(後列の右端が須田哲史さん)

(東京ひがしワイズメンズクラブ 須田哲史)

シリーズ 資料室の窓から<125> 『文献の基礎たる機関紙』

本会元副総主事 齊藤 實

資料室での文献整理作業を進める日々ではあるが、保存されている膨大な諸記録・文書を、ちらちらと読み進める中で、大事な「見解」としばしば遭遇する。「文献の基礎たる機関紙」という一文との出会いが、その一つで、こうした乱読の中に潜んでいた。今から69年も前に書かれた本紙の前身、MCA大学で丹念に整理されたその記録であり、また文

機関紙『東京青年』の『論壇』が目についた。当時の総主事木本茂三郎が東京YMCAが創立75周年を祝って刊行した創立記念誌『七十五年、東京の青年とともに』について、執筆者吉川たけし主事の苦勞の一端をこう述べた。「歴史の資料の貧困はおおむねこのことである」と。更に言う。「日本のYMCAの現勢は世界同盟の観点からすれば小さいものではなく、むしろ大きい。その勢力をもつてすればその活動を進めるためには更に多くの文献があつてよいわけである。…このような文献の現れる基礎として、機関紙はそれぞれの運動、組織の主張を闡明(明らかにする)のためのものである、同時にその記録であり、また文



機関紙の意味や価値について論じている『文献の基礎たる機関紙』

INFORMATION

■早天祈祷会(5月)■

聖書について会員有志が自分の考えなどを語る「奨励」の後、皆で祈り讃美歌を歌います。クリスチャンでない方もお気軽にどうぞ。

日 時：2026年5月7日(木)
7:00~8:00

奨励者：星野太郎氏
(東京YMCA総主事)
会 場：山手センター/オンライン
問合せ：会員部(03-6278-9071)

●●● 会員のご案内 ●●●

「会員」とは、東京YMCAの主旨に賛同し、会費によって活動を支援して下さる方のことです。YMCAは、青少年の健全な成長をサポートし、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるために、より多くの会員と共に活動していけることを願っています。



詳細はこちら

会員大会のご案内

会則に則り、年に一度の「会員大会」を開催します。東京YMCAをお支えくださる会員や支援者の皆さまへ一年間の活動を報告するほか、会員の表彰や交流などを行います。どなたでもご参加いただけます。

日 時：2026年5月23日(土) 13:30~16:00
会 場：東京YMCA山手コミュニティーセンター
参加費：無料
申込締切：5月15日(金) 問合せ：会員部



詳細はこちら

幼児

定例野外グループ

公園などに出かけ、季節を感じながら自然の中で思いきり遊ぶ、月1回のグループ活動です。

同年代の仲間と協力し、励まし合う中で、社会性や思いやりの心が育ちます。活動には18歳以上のボランティアリーダー(通称「リーダー」)が参加し、一緒に遊びながら子どもたちをサポートします。
※年少児は9月より体験・入会が可能です。



募集中の定例野外グループ(幼児)

- くれよん(江東コミュニティーセンター)
- にこにこクラブ(山手コミュニティーセンター)



詳細はホームページで

東京YMCA英語クラス

英語を通じて 世界とつながっていく

だから選ばれる、YMCAの英語クラス

- 100年以上の歴史と実績を誇るYMCAの英語教育
- 英語を通じて、グローバル社会で活躍する力を養成
- 多様性を受け入れる心と主体性を大切に教育

選べるバリエーション

- 東陽町・山手(高田馬場)・東雲・江東センターで開講
- 親子クラス、幼児・小学生クラス(60~120分)、英語放課後プログラム(3時間)、成人クラスなど
- 幼児から大人まで
- 初心者から帰国生レベルまで



オンラインレッスン・プライベートレッスンもあります。詳細はお問い合わせください。

公式Instagramで最新情報をチェック!



問合せ：東京YMCA語学教育センター(東陽町)
TEL.03-3615-5567
Email. yest1890@tokyoymca.org

東京YMCAメルマガ登録募集中

東京YMCAのプログラムやボランティアなどの情報をお届けします。月1~2回の不定期配信。登録はこちら



東京YMCA公式SNS

Instagram



https://www.instagram.com/tokyoymca/

x(旧Twitter)



https://x.com/Tokyo_YMCA

Facebook



https://www.facebook.com/tokyoymca

2025年度 日本YMCAユースボランティア認証者

東京YMCAでボランティアをしている下記の25人が「日本YMCAユースボランティア」として認証されました。これは①16~35歳で、②半年以上の活動経験があり、③ボランティアの研修を受け、所属YMCAから推薦された方を対象とするもので、2025年度は全国で3245人が認証されました。日頃のご活躍に感謝します。(順不同、敬称略)

池田麻祐子	小泉幹人	酒井康生	福元来実	足立百々葉
新 真緒	半田百花	小泉 諒	大淵志帆	伊藤孝一郎
大町美詞	米山 晶	木村光玖	千野深月	櫻井奈々
加藤瑞貴	唐澤 蘭	繁田イケム	福田加慧	飯塚 彩
辻 勇翔	高原 朗	川内梨叶	大賀紗菜子	山内和樹

書籍紹介

『「赤三角」の父 ジョージ・ウィリアムズの生涯』

YMCAの創立者、ジョージ・ウィリアムズ(1821-1905)の生涯を、甥のホダー・ウィリアムズがまとめた公式伝記です(原典は1918年、ケンブリッジ大学出版刊行)。

榊原正人さん(東京YMCA理事)が、中期計画「TOKYO YMCA VISION 150」の策定に関わる中で、YMCAの原点を改めて確認・共有したいとの思いから翻訳を手掛け、東京YMCA総合研究機構が企画・発刊しました。

幼少期に家庭で育まれた信仰を礎に、過酷な社会背景の中でYMCA創立へと至る情熱と行動力が丁寧に描かれています。小さき人々の隣人として寄り添い、人との対話を愛し、生涯を通して信仰とYMCA運動の発展に尽くした人物像が、現代にも静かな示唆を与える一冊です。
問合せ：総務部(03-6302-1960 soumu@tokyoymca.org) 1,000円(税込)



翻訳者の榊原正人さん

